

津波ハザードマップ

この津波ハザードマップは、香川県地震・津波被害想定調査により公表された南海トラフを震源とする地震により発生が予想されている最大クラス（※）の津波被害想定に基づき作成しています。



最大クラスの地震・津波とは、千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するが、発生すれば甚大な被害をもたらす地震・津波です。南海トラフで最大クラスの地震が発生した場合、さぬき市の最大震度は震度**6強**、その揺れは最大で約**4分間**続くことが予想されています。

被害想定

市内の主な港の最高津波水位



浸水面積 浸水の深さが1cm以上となる地域の面積

528 ha

志度港における海面変動開始時間等（津波の影響がでるまでの想定時間）

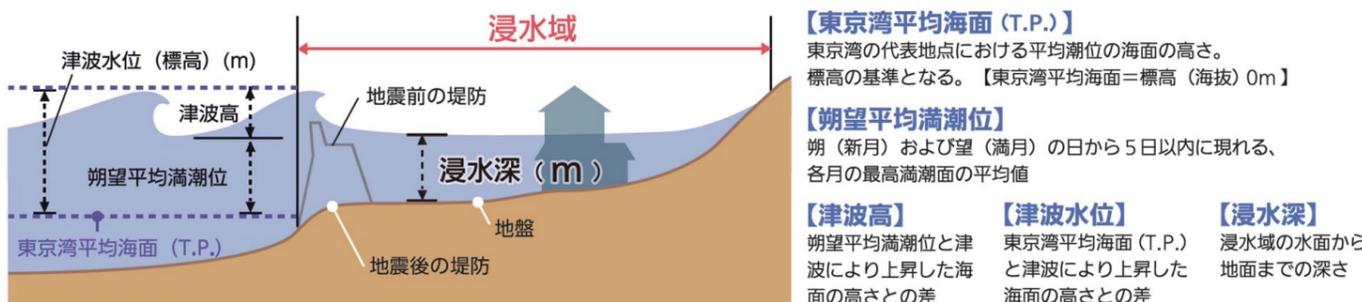
※想定時間はあくまで目安の時間であり、想定時間まで最大波が到達しないということではありません。



津波被害想定条件

香川県地震・津波被害想定調査の津波被害想定は、次のような条件でシミュレーションしています。

- 条件1** 四国沖の南海トラフを震源域とするMw(※)9.1の地震により最大クラスの津波が発生 ※モーメントマグニチュード
- 条件2** 地震発生時の海面は満潮時（朔望平均満潮位）とする
- 条件3** 地震による海底地盤の沈降（地盤沈降量）を考慮する
- 条件4** 液状化による陸域の沈降量を考慮する
- 条件5** 堤防や防波堤は破壊され機能しない(※) ※コンクリート構造物は100%、盛土構造物（土で築造された堤防等）は75%沈下、津波が堤防などを乗り越えた場合は破壊

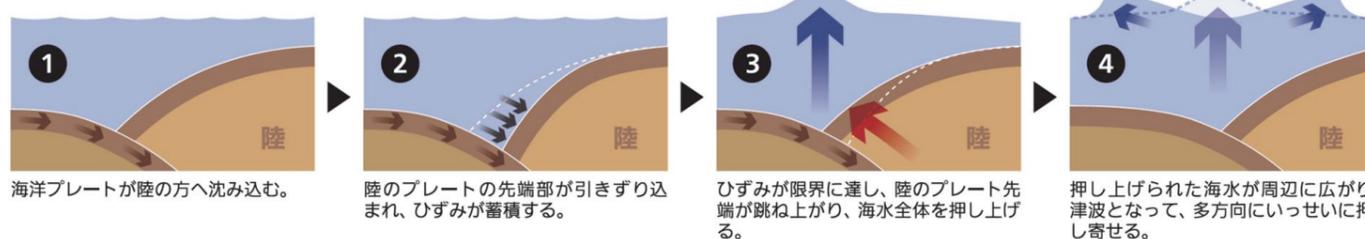


注意していただきたい事項

- このハザードマップは、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表しています。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に計算したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- このハザードマップの浸水域や浸水深は津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響、地震による地盤変動、構造物の変状などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
- 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

津波発生のメカニズム

海底で地震が起こると、大量の海水が一度に大きく持ち上がり、津波となって沿岸までやってきます。



津波の特徴

津波はいくつかの特徴を持った災害です。津波の特徴を知り、いざというときのために準備をしましょう。

- 岬の先端やV字型の湾内、入り組んだ海岸は津波のエネルギーが集中し、波が高くなる可能性があります。
- 津波は川を遡り（遡上）、堤防を超えて陸地に津波が溢れます。
- 第一波より第二波、第三波のほうが大きくなる可能性があります。
- 1～2 mの津波で家屋の全壊、流失する可能性があります。
- 津波はガレキ等の漂流物を巻き込んで破壊力を増し、建物やときには防波堤さえも壊すことがあります。
- 20～30cm程度の津波でも立っていらなくなり、足をとられ波にさらわれます。
- 引いていく波の破壊力もすさまじく、陸で引き波にさらわれて沖に流されてしまうこともあります。
- 津波は繰り返し襲って来ます。地震後6時間（最大12時間）は注意が必要となります。

- 津波は引き潮からはじまるとは限りません。
- 震源が近く、水深が深いほど津波は速く襲ってきます。早いときには揺れてから数分で襲ってきます。
- 基本的に地震の震度と津波の高さは比例します。

過去の津波による被害（東日本大震災からの教訓）

東日本大震災のときに起きた津波災害から学ぶことで、私たちの命を守るヒントがあるかもしれません。同じ失敗を繰り返さないように特徴的な事例を学びましょう。

- 死亡者の過半数は高齢者**
- 死因の9割は溺死**
- 避難は率先して**
- 平野部はリアス式海岸に比べ、死亡率が高い**

東日本大震災の死者のうち60歳以上の比率は64.4%と高齢者ほど死亡率が高くなっています。津波被害から逃げたり脱出したる困難性が加齢により大きく影響を受けた様子が何れ、自宅にいて、逃げ遅れたケースが少なくないといわれます。

東日本大震災で亡くなった岩手、宮城、福島3県の人たちの死因の9割は、津波による溺死でした。津波による死因は、海や川、プールで亡くなる『狭義の溺死』と異なり、津波の水圧と水流、漂流物という三つの要素が大きな影響を与えていたと考えられています。

津波が来ると知らされてもどこか人ごとに考え、近所の人たちもまだ避難していないし大丈夫だろうと避難のタイミングが遅れて被災してしまうケースがありました。自ら危険だと判断した場合は率先して避難をしましょう。

同じ津波の高さでもリアス式海岸を中心とする地域に比べ、平野部での死亡率は倍以上と高いことがわかりました。平野部は近くに逃げるための高台が少なかったことが原因とみられています。

津波から命を守るために

ポイント マップで自宅や家族に関する場所の浸水深を確認しましょう。地震・津波から命を守るために、いざというときの行動や避難の方法を普段から想定し、適切に避難をしましょう。

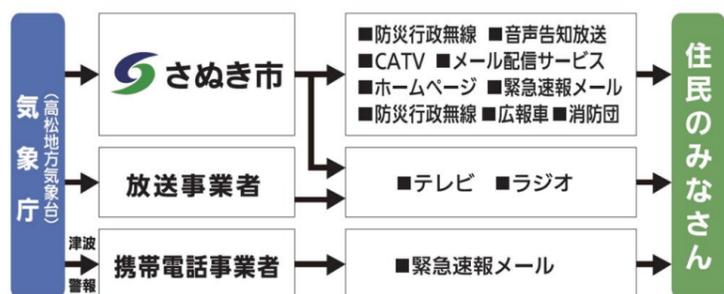


津波警報等の種類

気象庁は、地震が発生したときには地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分(一部の地震については最速2分程度)を目標に、大津波警報(特別警報)、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します。

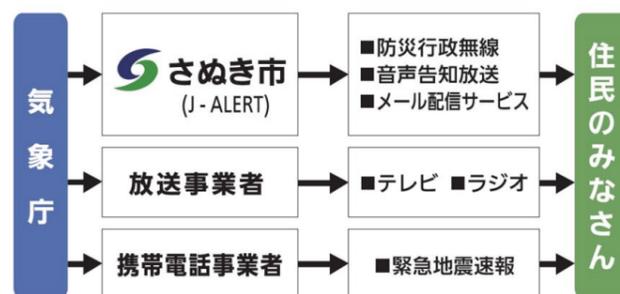
	予想される津波の高さ		想定される被害	高さのイメージ	取るべき行動
	平常潮位からの津波で変化した波の高さ	巨大地震の場合の表現			
大津波警報(特別警報)	10m超(10m~)	巨大	木造家屋は全壊、流失し、多くのガレキや船舶なども陸上に押し流され、さらに多くの家屋が流失します。	[高台避難場所] [津波避難場所]	マップの浸水域や海岸、川の近くに居る人はただちに近くの市が指定した広域避難場所や津波避難場所または高台などに避難する。
	10m(5m~10m)				
津波警報	5m(3m~5m)	高い	家屋の浸水被害や流出。木造家屋は2mの浸水で全壊、流出します。(内閣府データより)	[高台避難場所] [津波避難場所]	
津波注意報	3m(1m~3m)				
	1m(20cm~1m)	表記しない	養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆します。		

津波警報・注意報や避難情報等の伝達経路



災害時には速やかに様々な手段で住民のみなさんに情報が伝えられます。

緊急地震速報の伝達経路



インターネット等による情報入手

さぬき市の災害、避難、雨量や河川水位等の情報は、ホームページやメール配信サービスからでも情報を確認することができます。

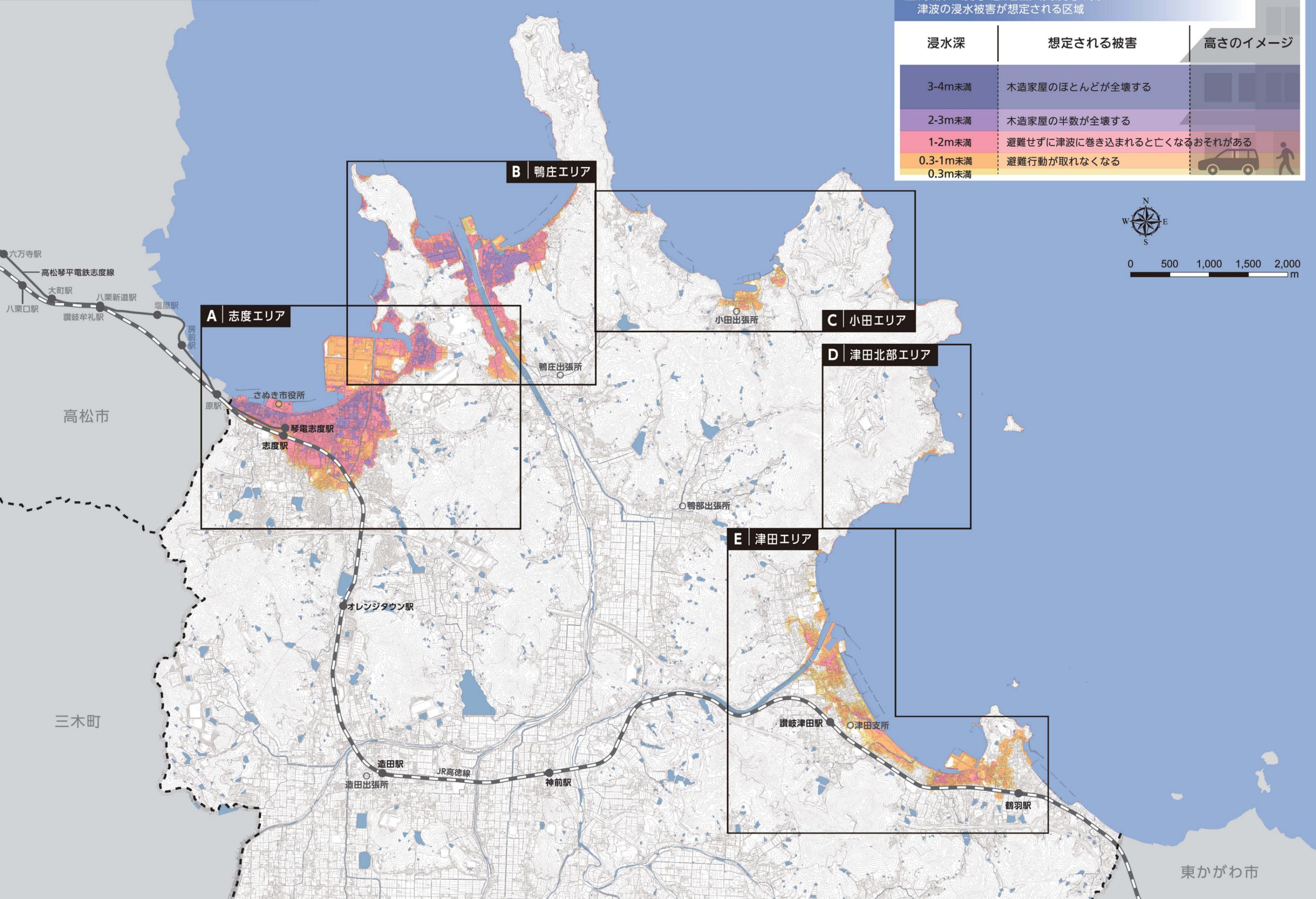
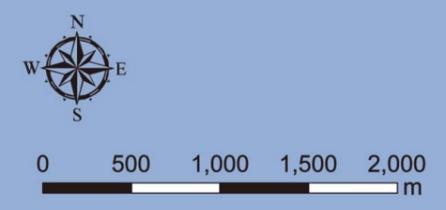
さぬき市ホームページ	http://www.city.sanuki.kagawa.jp/
さぬき市メール配信サービス(安全安心コミュニティ)	http://anshin.sanuki.ne.jp/
香川県防災情報ホームページ	http://www.pref.kagawa.lg.jp/bosai/
気象庁ホームページ	http://www.jma.go.jp/index.html

海拔表示板



津波の浸水想定区域(浸水深)
津波の浸水被害が想定される区域

浸水深	想定される被害	高さのイメージ
3-4m未満	木造家屋のほとんどが全壊する	
2-3m未満	木造家屋の半数が全壊する	
1-2m未満	避難せずに津波に巻き込まれると亡くなるおそれがある	
0.3-1m未満	避難行動が取れなくなる	
0.3m未満		



A | 志度エリア

B | 鴨庄エリア

C | 小田エリア

D | 津田北部エリア

E | 津田エリア

六万寺駅
高松琴平電鉄志度線
八栗口駅
大町駅
八栗新道駅
讃岐牟礼駅
房前駅

原駅
さぬき市役所
琴電志度駅
志度駅

鴨庄出張所

小田出張所

鴨部出張所

オレンジタウン駅

造田駅
造田出張所

JR高徳線

神前駅

讃岐津田駅
津田支所

鶴羽駅

東かがわ市